



阿 施 第 3 0 3 号
平成20年10月14日

国土交通省道路局長様

山口県阿武郡
阿武町長 中 村 秀 明



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったこのことについて、別紙のとおり回答します。

1. 道路関係財源制度について

道路特定財源制度は、平成21年度から一般財源化することが閣議決定されているが、地方にとって社会資本の整備、とりわけ生活道路の整備は、今後も必要不可欠である。

道路特定財源等に関する基本方針（平成20年5月13日閣議決定）にある、道路特定財源一般財源化に伴い、「地方財政に影響を及ぼさないように措置する。」とあり、現行の地方道路整備臨時交付金制度（補助率の嵩上げを含む。）は、今後も継続拡充されるよう要望する。

2. 高速道路の整備について

過疎化・高齢化が進み、若年労働者の県外流出による後継者不足などにより、耕作放棄地の拡大や森林の荒廃が進み、また水産業でも就業者の高齢化が進んでおります。地方の道路整備のさらなる遅れは、過疎化と高齢化などの問題を抱える中山間地域にとっては、地域の発展や住民生活の利便性を考える上で大きな問題となってくる。高速道路のネットワーク化を進めることにより生活維持向上と良質で安心安全な農水産物の販路拡大と若者の雇用拡大など、地域経済発展には無くてはならないものである。

都市部と比べて遅れている高速道路について、地域間の格差が生じないよう要望する。

１．地域連絡道路の整備促進について

本町は、昭和３０年に３地区が合併した。近年の少子高齢化の進展に伴い、児童生徒数も大きく減少し、小学校、中学校の統合が避けてとおることの出来ない課題である。現在中学校の統合計画が進んでいるが、地域間の連絡道の未整備によりスクールバスの通行に支障がある等の理由により統合できず、教育上大きな課題となっている。

２．過疎化の進展に伴う集落維持について

本町の高齢化率は約４３％であり、今後益々進展していく。中山間地域を抱える地区においては、道路は、生活を維持していく中で最も大切な社会資本である。いわゆる限界集落が増える中、集落機能の維持をどう図っていくかが、重要な課題となっている。

町の将来像

「夢と笑顔あふれる『豊かで住みよい文化の町』」

阿武町の誇れる美しい海や緑豊かな山々などの豊かな「自然」。またここから生まれる新鮮な海山の幸。独自の文化遺産、伝統芸能、さらには、先人達から引き継ぎ、育んできた町の「雰囲気」、「心意気」、「文化」。また、その主役たる「人々」その「英知」。これら、本町の持つ特性や人、自然、文化などの資源を最大限に生かし、新たな理念と町の過去現在未来の普遍のテーマを融合させ、阿武町の将来像を「夢と笑顔あふれる『豊かで住みよい文化の町』」とする。

１．道路主要事項

本町中心部においては、近年の公営住宅建設・分譲地への個人住宅建設等により新たな行政区が誕生した。しかしながら、この地域から公共施設、国道へのアクセス、また小中学校の通学路の安全確保において、ＪＲ山陰本線が東西に走っていることが、大きな支障となっている。これらを解消するため新たにバイパス道路を建設し、利便性の向上、児童生徒の通学路の安全確保を図り、また中心部に芝生等の公園や水に親しむ親水公園等を設置することにより、うるおいと安らぎを実感できる空間を新たに創造する。

今後の道路行政についての意見・提案

様 式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

山口県・阿武町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
総合的な交通安全対策	町道汐入野地線道路新設事業 新たな住宅地から国道や公共施設へのアクセス道、児童生徒の通学路の安全確保を図るため、新たにバイパス道路を新設する。	住民生活の利便性向上 児童生徒の通学路の安全確保	